

2018年
9月10日

No.238

さざなみ

〒520-2141
大津市大江6丁目23-24

さざなみネット
(金融労連・全国金融産業労働組合滋賀分会)
TEL・FAX 077-545-5154

金融ユニオン第10回定期全国大会

困っている労働者を迎え入れ、一緒に要求実現を

9月1日、愛知県豊橋市で、金融ユニオン第10回定期全国大会が開催され、代議員・役員・オブザーバー28名が、さざなみネットから山崎書記長が代議員として参加しました。

大会は右下記の日程の通り行われました。

冒頭中村委員長が「異常気象の下で、国民が不安な日々を送っている中、安倍政権の無責任な政治が加速している。日銀の異次元の金融緩和は、世界から突出した異常な事態を招いている。職場で悩み、困っている労働者を金融ユニオンに迎え入れ、一緒に要求実現に向けて取り組もう」と挨拶しました。

活動経過報告と運動方針案を黒田書記長が提案し、議案審議が行われ、代議員を中心に13人が発言しました。多くの発言がありましたが、紙面の関係で滋賀分会の発言のみを掲載します。



山崎代議員が発言

発言

滋賀分会は、企業別組合・そのOB組織と共同して、働く仲間の要求実現と地域経済を守る活動をしてきている。大会議案「はじめに」



リンドウ 岩波 美智子さん 画

に記載の「企業別組合と個人加盟労組の力で産業別統一闘争を」の方針に基づいてがんばっている。

本部役員選挙の内容や経過について、分会に詳しい報告がなく困っている。組合員からの質問に回答できない。その後も理解できないことが発生し、不安と不信が残っている。明確な報告をお願いしたい。

回答

新執行部で討議し、できるだけ早く報告できるように努力する。

その後、すべての議案が満場一致で採択され、新年度の役員の中から三役が下記の通り選出されました。(敬称略)

- 委員長 黒田清美 (新)
- 副委員長 中村弘光 (新)
- 緒方 論 (新)
- 書記長 大場正博 (新)



中村委員長があいさつ



黒田新委員長と新役員

- ・閉会あいさつ
- ・議案審議
- ・提案採決
- ・2019年度予算案 会計監査報告
- ・2018年度決算
- ・2019年度運動方針(案)
- ・2019年度運動方針(案)
- ・秋季年末闘争について
- ・経過活動報告
- ・2018年度運動のまとめ
- ・中央執行委員長挨拶
- ・開会宣言 議長団・大会役員選出

金融ユニオン第10回定期全国大会日程

第64回日本母親大会 in 高知

女性参政権発祥の地・高知で 安倍改憲阻止へ熱気

母親・女性の願いを結集し、草の根から行動し、歩んできた日本母親大会。第64回は、女性参政権発祥の地・高知で8月25日～26日開催されました。2日間でのべ8300人が、さざなみネットから2人が参加しました。

「全国に広がった市民と野党の共同をさらにつよく大きく広げ、憲法を守り生かす圧倒的な流れをつくりだそう」「子どもたちに『核兵器のない平和で明るい未来』を手渡すため、ともに力をあわせよう」との大会アピールを採択しました。

日本母親大会連絡会の笠井貴美代表委員（新日本婦人の会会長）が主催者あいさつし、「自由民権運動発祥の地でもある高知で、女性や市民がいのち、暮らし、平和の声をあげ、行動するなかで開かれている」と強調。「女性の運動がカギを握っています」と述べ、安倍9条改憲ノー3000万人署名とヒバクシャ国際署名をさらに積み上げ強めていきましょう、と呼びかけました。沖縄県知事選について、「米軍の新基地を造らせない。日本の民主主義をかけ、熱く連帯し、全国から支援を強めよう」と訴えました。

一橋大学名誉教授の渡辺治さんが「憲法とともにあゆみつづける～子どもの未来・くらし・

平和」と題して記念講演。戦後自民党による改憲の企てと国民のたたかいをあとづけながら、「幅広い共同をさらに強く大きくし、秋のたたかいで必ず3000万人署名をやりきって、安倍9条改憲をつぶし、政権を倒そう」と結ぶと、会場から「やるぞ」の声と大きな拍手が起きました。

感想 勇壮な太鼓のひびきとくじらの親子の泳ぐ舞台絵・・・郷土豊かな「よさこい鳴門踊り」のリズム、はじける様な会場です。

記念講演は、渡辺治さん「憲法の歴史を語り、今年2018年は将来をめぐる分岐点」、3000万署名をやり切ろうと呼びかけました。

翌26日の分科会は「世界と連帯して核兵器廃絶へ一核被災国日本に生きる一」に参加。第5福竜丸の久保山愛吉さん（静岡・焼津）たちだけの問題としてとらえてなかったが、太平洋岸の漁師さんたちほとんどが内部被ばくをしていた現実、核兵器は世界中に被爆者を生み出していることに改めて怒りを覚えました。

「核兵器廃絶」の署名を広め、平和で安心して暮らせる社会を、将来をになう子どもたちに手渡したいと思います。（植木）



くらし、いのちを守るたたかいの交流をする全国各地の参加者たち



各時代の作品の軌跡を鑑賞し、一村の絵画への思い、新しい創作への模索の苦悩・努力の一端が、分かった。何事も個性・自分にしかできない何かを発見し、それを発揮することが大事なのだと思った。

20th Tanaka ISSON 画館20周年特別企画展 生誕110年

田中一村展

7月14日〔土〕～9月17日〔月・祝〕

佐川美術館開館20周年特別企画展「生誕110年 田中一村展」に行ってきた。田中一村は、幼少期より南画を描き、天才ともはやされ東京美術学校に入學したが、2カ月で退学した。それ以降は独学で画家人生を歩み、新しい創作への道を模索する中で、奄美大島へ渡り亜熱帯の植物や鳥などを題材にした日本画を描き、独自の画業を追い求めていった。しかし生前それらの発表する機会もなく無名のままこの世を去った。